

もも・ネクタリン特報 ⑧

令和8年6月16日
JA中野市園芸課
JA中野市りんご・もも部会



6月下旬の散布薬剤について
6/1 配布の特報No.⑦をご確認ください。

次回特報配布日
7月1日(予定)

【もも】 第9回 薬剤散布

散布時期	7月上旬 目安：7/5～7/10頃	散布日	月	日
散布薬剤	水	100ℓ当たり	散布量	ℓ
	展着剤(ハイテンパワー)	10ml		
	マイトコーネフロアブル	100ml (前日、1回)		
	オンリーワンフロアブル	50ml (前日、3回)		
	エクシレルSE	20ml (前日、3回)		
対象病害虫	黒星病、灰星病、ホモブシス腐敗病 シンクイムシ類、モモハモグリガ、ハマキムシ類、ケムシ類、ハダニ類			
散布量	10a当たり：500ℓ			
注意事項	① 有袋品種は、除袋後に散布する。			

【重要】

本年、初期生育が早かったため、薬剤散布も前倒しとなっています。そのため、**特報の散布日目安から収穫を迎えるまで散布間隔が空く場合**は、以下を参考に薬剤防除を行って下さい。

殺菌剤：ベルコートF2,000倍(前日、3回) オーシャインF2,000倍(前日、3回)等

殺虫剤：イカズチWDG1,500倍(前日、5回) アルバリン顆粒水溶剤2,000倍(前日、3回)等

【ネクタリン】 第9回 薬剤散布

散布時期	7月上旬 目安：7/5～7/10頃	散布日	月	日
散布薬剤	水	100ℓ当たり	散布量	ℓ
	展着剤(ハイテンパワー)	10ml		
	オンリーワンフロアブル	50ml (前日、3回)		
	エクシレルSE	20ml (前日、3回)		
対象病害虫	黒星病、灰星病、ホモブシス腐敗病 シンクイムシ類、モモハモグリガ、ハマキムシ類			
散布量	10a当たり：500ℓ			
注意事項	① ハダニ対策 マイトコーネフロアブルの1,000倍(3日前、1回)を加用する。			

【収穫前栽培管理について】 裏面をご覧ください

収穫前栽培管理作業について

除袋 ～ 収穫までの流れ

除袋（収穫 10～14 日前）⇒収穫前最終防除⇒反射マルチ（収穫 7～10 日前）⇒収穫（葉摘みは、除袋期から反射マルチを敷くまでに適宜実施する）

◆ 除袋（収穫開始予想は、平年よりやや早くなる見込みです）

	品 種	除袋 終了目安
着色しやすい品種	白鳳・あかつき・なつっこ・川中島白鳳・川中島白桃・黄金桃など	収穫 10 日前
着色しにくい品種	山根白桃・志賀白桃・白桃・白根白桃・ゴールデンピーチ・秀峰など	収穫 10～14 日前

- ①除袋適期：果実の地色が抜け、やや緑色が残っている時期。地色の緑色が完全に抜け、果面が黄白色では遅い。
- ②果実温が低い時間帯に除袋を行うと日焼けを生じやすいため、早朝に除袋は行わない。
- ③2重袋を使用している場合は、外紙を除いて中袋を残して収穫する。
⇒成熟が早まる傾向があるため、除袋が遅れないよう注意する。除袋が遅れると、鮮やかな着色に仕上がらない。
- ④除袋後は果実に密着している葉を摘み取り、着色のムラを防ぐ。（極端な葉摘みはしないこと）
- ⑤除袋時期に入って天候不順で日照不足が続くときは、2日くらい早めに除袋する。

◆ 反射マルチ（反射マルチは白系マルチ【タイベック】【パールライトWS】等を使用する）

着色のしやすい品種＝収穫 7～10 日前	着色しにくい品種＝収穫 10～14 日前
[使用上の注意]	
1. 徒長枝切りや樹冠の混みあっている枝を整理し、園全体の日照条件をよくする。（暗い園は効果が少ない）	
2. 事前に園内の除草や整地を行ない、地面を平らにする。	
3. 反射マルチは風で飛ばないように固定する。	
4. 着色が食味より先行するため、早もぎになりやすいので収穫は熟度を確認してから行なう。	

◆ 葉摘み

※果実周辺の密着している2～3枚(多くても5～6枚程度まで)を摘む。

※葉摘み開始時期 ⇒ 有袋：除袋期前後から実施 無袋：着色始めから実施

※果実鮮度保持のため、果実温の低い時間帯に収穫する。(早朝から午前8時ごろまでが望ましい)

◆ 水管理のポイント

- ① 土壌水分変動を極端にしない（定期的なかん水）
 - ・乾燥傾向の場合は、収穫予定日の 10 日前までかん水を実施する。
 - ・晴天が 5～6 日連続したらかん水を実施する。
 - ・かん水設備の無い園地：タンク等で水を運び、根元を中心にかん水を実施する。
※1 樹当たり 100～200ℓ 程度（目安）
- ② 土壌乾燥防止
 - ・雑草は短く刈り込みすぎないように注意する。
 - ・樹冠下マルチや敷きワラ等、幹まわり 2m 範囲中心に実施する。